

おばけのバーバパパ

アネット＝チゾンとタラス＝テイラー 作
やましたはるお 訳



偕成社 1972年 1000円

小さな男の子、フランスの庭で生まれたバーバパパは、おおきすぎて、フランスのうちにも、動物園にもおいてもらえません。さみしくて、とうとう泣き出してしまったとき、街で火事が起こり…。階段状になって人々を助けたり、ボートの形になって子どもたちを乗せてくれたり、自由自在に姿を変えられるバーバパパの様子が子どもたちをひきつけます。シリーズは「バーバパパうみにでる」などがあります。

おふろだいすき

松岡享子 作
林明子 絵



福音館書店 1982年 1200円

ぼくが、おもちゃのアヒルのプッカをつれてお風呂に入ると、大きなかめ、ペンギンにオットセイと、海の動物たちが次々とあらわれます。ぼくは、かぼの体を洗ったり、くじらのシャワーを浴びたり、楽しい時間を過ごします。やわらかい黄色を基調とした絵は、本当にお風呂に入っているような、あたたかな心地にさせてくれます。また、表情豊かな動物たちが、この不思議なお風呂の時間を自然なものにしています。

おやすみなさいおつきさま

マーガレット・ワイズ・ブラウン 作
クレメント・ハード 絵
せたていじ 訳
評論社 1979年 1000円



ベッドに入った子ウサギは、眠りにつく前のひととき、部屋中のこまごまとしたもののひとつひとつに、「おやすみ あかりさん」「おやすみ あかいふうせん」と声をかけていきます。明るい赤と緑で描かれた部屋は、徐々に暗くなっていき、反対に、夜空は鮮やかさを増していきます。ゆったりとした美しい言葉が、眠りに着く前の静けさと安らぎを感じさせます。